

週刊新潮

1月19日号
400円



3

見方だがと断って、「数字が低迷しても評論家のウケは狙える」という保険はかけておこう、そういういった守りの姿勢が透けて見えますね」

「元・真正SMAP」

それは、本誌が報じた、キムハブ解散式。すなわち、六本木の高級焼肉店で木村を除いたSMAPの4人と元メンバーの森且行(42)が参加し、SMAP最後の大晦日に慰労会が行なわれたことだ。先のデスクは、「新潮さんの記事だと、1度予約した店がジャニーズにバレてもめげずに別の店で宴を敢行したわけでしょう。事務所の面目なんてもうないんじゃないですか」としたうえで、こんな風に業界内の「いま」を描写してくる。

「木村vs草薙」のドラマ対決がどうなるかという話

題で持ちきりです。キムハブ忘年会で、「元・真正SMAP」は木村だけということが明らかにになってしまった。4人は事務所の命令に従わなかったんですから。仮に草薙の番組の方が数字

1 歌詞が出てこない「沢田研二」の脳内で起きたスパーク

弘法は筆を誤り、猿も木から落ち、ベテラン歌手は歌詞を忘れる。ジュリーこと沢田研二(68)は正月ライブで歌詞を忘れ、約3600人のファンに土下座で謝罪をした。その瞬間、往年のスーパースターの脳内には、どのようなスパークが起きていたのか。

1月8日、沢田は毎年恒例の正月ライブをNHKホール(東京・渋谷)で開催。『反原発』を掲げる山本太郎参院議員の選挙応援をしただけあって、東日本大震災や原発事故をテーマにした曲で構成された内容だった。

が勝る、なんてことになったらジャニーズの威信は地に墜ちます。メリーさん(秦子副社長)以下、事務所幹部は、そうした事態だけは避けたいはず」

泣く子も黙るジャニーズ
とはいうものの、草薙のドラマの数字を下げるとまでは指示できない。おでんはぐつぐつやるもんで、あまり一気に煮てしまうと、「クタクタ」になりませ。

観客の1人が言う。「中盤、『Pray for God』と『え賜いし』という曲を歌い始めた途端、ジュリーは『忘れちゃった』と演奏をストップさせました。それから、何ごともなかったように、もう一度、よろしく」と言ってから歌い出し、最後はスポットライトを浴びながら観客席に向かって土下座した。ジュリーにとっ



見た目は昔と変わったが……

て思い入れのある曲なので、びっくりしました」

1967年に、ザ・タイガースのリードボーカルでデビューして50年。一線に立ち続けた沢田がなぜ、歌詞を忘れてしまったのか。神経内科が専門の米山公啓医師によれば、「人間の記憶には、新しくものを覚える『記銘』、記憶

を留めておく『保持』、記憶を思い起こす『想起』という3つの過程があります。年齢を重ねると脳の神経細胞が減少するうえ、神経細胞を繋ぐ軸索の髄鞘が劣化し、情報の伝達速度が遅くなってしまいます。わかりやすく言うと、軸索が電線で、髄鞘がそれを覆う絶縁体のビニール。そのビニールが古くなって、漏電するようになった結果、その3つの能力が低下するわけです」

ボケ防止に効果的

つまり、加齢に伴い、忘れは増えていくわけだが、よりによって大事なところで『ど忘れ』をするのにも理由がある。

脳神経外科の工藤千秋医師が解説する。

「歌詞などの記憶は、脳の前頭葉と海馬という部分で整備されます。一方で、前頭葉は感情のコントロールも司っている。コンサートなどの大舞台で、歌手が歌詞を間違えたり、忘れたりしてしまうのは、緊張やそ

の曲に対する思い入れなどの感情に前頭葉が支配されて、記憶情報が引き出されず、**「ど忘れ」**を起こす場合があるからです」

大舞台といえ、NHK紅白歌合戦だが、確かに細川たかしは、十八番の『浪花節だよ人生は』の歌詞を84年と2006年の2回も忘れ、大御所・北島三郎も98年、『根っこ』という曲の『忘れるな』というフレーズを忘れ、照れ笑いで誤魔化した。おまけに、矢沢永吉は09年、代表作の『時間よ止まれ』を披露したものの、2カ所にわたって歌詞を間違え、NHK側が気を使って字幕を消す始末だった。

「もの忘れ外来」徹底ガイド」の著書がある奥村歩医師の話。

「ですが、歌手活動は、ボケ防止にはとても効果的です。歌手の方は、ファンに飽きられないように常に新

また、ライブを行うことで、バンドメンバーやスタッフなどいろんな人との交流も

5 「中村俊輔」は横浜マリノスと一緒に4000万円を棄てた

生涯巨人を買ったミスターは長嶋茂雄。横浜F・マリノスのミスターといえ、中村俊輔38である。もっとも、ミスター・マリノスは突如、ジュビロ磐田への移籍を余儀なくされた。同時に1億2000万円の年俸も棄てたそうだから、余程の事情があったようだ。

マリノスは中村の移籍に関し「多大なるご心配と不安をおかけすることとなりますが……」と、まるで不祥事を起こしたようなコメントを出している。チームも自らに非があると感じているらしい。

生まれている。そのおかげで、脳が活性化するのは「ど忘れ」したとはいえ、

いまま脳内は、「TOKIO」の衣装のようにスパークしているのだ。



犬猿の仲(左下・モンバエルツ監督)

で、いよいよまずいとなった時、手を挙げたのがイングラント・プレミアリーグのマンチェスター・シティなどを保持するシティ・フットボール・グループ(CFG)でした。彼らは2014年5月、マリノス株を20%取得し、同年12月にフランス人のモンバエルツ氏を監督に据えたのです。当初、チ

の意向が直接、運営に反映されるようになった。現在、彼らはベテランで高コストの選手を整理しようとしています。俊輔もその煽りを受けたということです」

全盛期を過ぎたとはいえ、芸術的なフリーキックはまだ健在。しかも、マリノスでは一番人気の選手である。16年の年俸は1億3000万円で、J1の全

原因は、モンバエルツ監督との不仲です。元々、俊輔はピッチ上の監督で、戦術的なリーダーだった。が、モンバエルツが監督に就任すると、若手が起用されるようになり、徐々に俊輔の出番は減った。監督は、練習でも彼と他の選手がコミユニケーションを取れない雰囲気を作っていました」

「私のチームだ」

中村をよく知るサッカー評論家の佐藤俊氏も言う。「一サッカー選手として、試合に出られないのは悔しい。だけど、ずっとキャプテンを任されてきた中村君は、自分のこと以上にチームを気に掛けていた。自分が外れて結果が出るならいいが、成績は一向に上がらない。そこで監督に何度か彼なりの提案をしたそうですが、その度に「マリノスは私のチームだ」と突っぱねられた。フランス人はま